

公務員試験体験談(3):女子(園芸経済学科4年)

1. 合格先:

国家Ⅱ種 文部科学省(技術職)

2. 公務員対策を始めた時期:

教養の数的処理などは大学2年の頃から少しずつやりはじめた。また、大学で選択する授業はなるべく公務員試験の専門科目にと共通する授業を意識的に選択していた。(昆虫学、土壌学、植物病理学など)本格的に専門、教養を勉強し始めたのは大学3年生の頃から。他にも意識的に農水省や千葉県庁にインターンシップなどで行っていた。

3. 予備校:

教養だけ予備校に通っていた。数的処理の解法や、普段あまり触れることのない社会科学などでは非常に役に立った。また予備校に通った理由は、勉強面だけではなく情報収集の為でもあり、やはり有益な情報も得られたので良かったと思う。あとは意外に対策がなかなかされない2次対策では、非常に予備校にお世話になった。模擬面接から面接カードの作成、官庁訪問の仕方などをじかにアドバイスしてくれたので、本番ではほどよい緊張感で臨めた。

4. 受験の動機:

私の実家は自営業であり、これまでの不景気を乗り越えるのに大変苦勞している様子から、両親のアドバイスもあり、公務員の受験を考えた。

5. 公務員対策で苦勞したこと:

苦勞したことより辛かったことのほうが多いが、とりあえず試験期間が長いこと、勉強すべき範囲が膨大なこと、技術職は受験できる団体が非常に少なく選択の余地がないこと、などが挙げられる。試験勉強中はいつ終わるのか、合格できるのか、勉強すべき範囲を終わらせることはできるのか、点数はどのくらいとればいいのか、他に受けられる団体はないか、など、日々不安もありましたが、自分を信じて勉強をし、試験に臨んだ。と言ってもモチベーションが下がってしまう時期は誰にでもある。実際私もやる気のない時期は多々ありました。でもそんなときはひたすら休み、気分転換をしたり、それぞれの団体の業務説明会などに行ったりして、モチベーションが上がるのを待った。

6. 公務員試験を乗り切るための心構え:

公務員試験は期間が非常に長く、知力体力忍耐力を常に必要とします。また、誰にでも好調不調のときはあり、特に不調の時は机に向かうことが嫌になったり、模試の成績が悪くて不安になったりすることがありますが、どんなに不調なときも前向きに立ち向かい、なにが起きても最後まで諦めない姿勢が大事だと思います。私は試験中も模試の時も、あと1分しかない状況で「あと1分もある」と思うように心がけていました。実際1分で解ける問題はありますし、その1点が合否に関わったりするものです。そして、一番大事なことは体調管理です。いくら試験対策をしても、本番で体調を崩してしまえば100%の力は出せなくなってしまいます。体調管理をしっかり行うことは非常に望ましいことですが、どうしても具合がさえないときのことも想定して、試験対策をしていくことをオススメします。